

# 2014年度第1四半期業績のご報告

日本エマージェンシーアシスタンス株式会社

2014年5月13日

# I . EAJ事業内容のご説明

## EAJの目標

### ◇ EAJは「安心」を提供する企業です。

国際化を余儀なくされる日本経済にとって海外市場、とりわけアジア市場との関わりは避けて通れません。しかし、海外にいる時でも、日本と同じような医療を受けられることが保証されていたら、どれだけ安心でしょうか？

EAJは、クロスボーダー/クロスカルチャーで活躍するお客様に対して、言語や社会制度、カルチャーギャップのある海外でも、安心して医療などの必要なサービスを受けることができるように、現地のインフラとお客様の間に入って、コーディネートする仕事を行っています。

EAJは世界のあらゆる地域で「安心」をサポートできるよう業容を拡大し、お客様が安心して活動できる世界を広げます。

### ◇ 将来は、民間の領事館のようになりたいと思っています。

現在、海外にある日本領事館は、医療関係、事故などの対応窓口として海外で生活する日本人を保護する業務をしており、海外で暮らす日本人にとって大変重要な存在です。

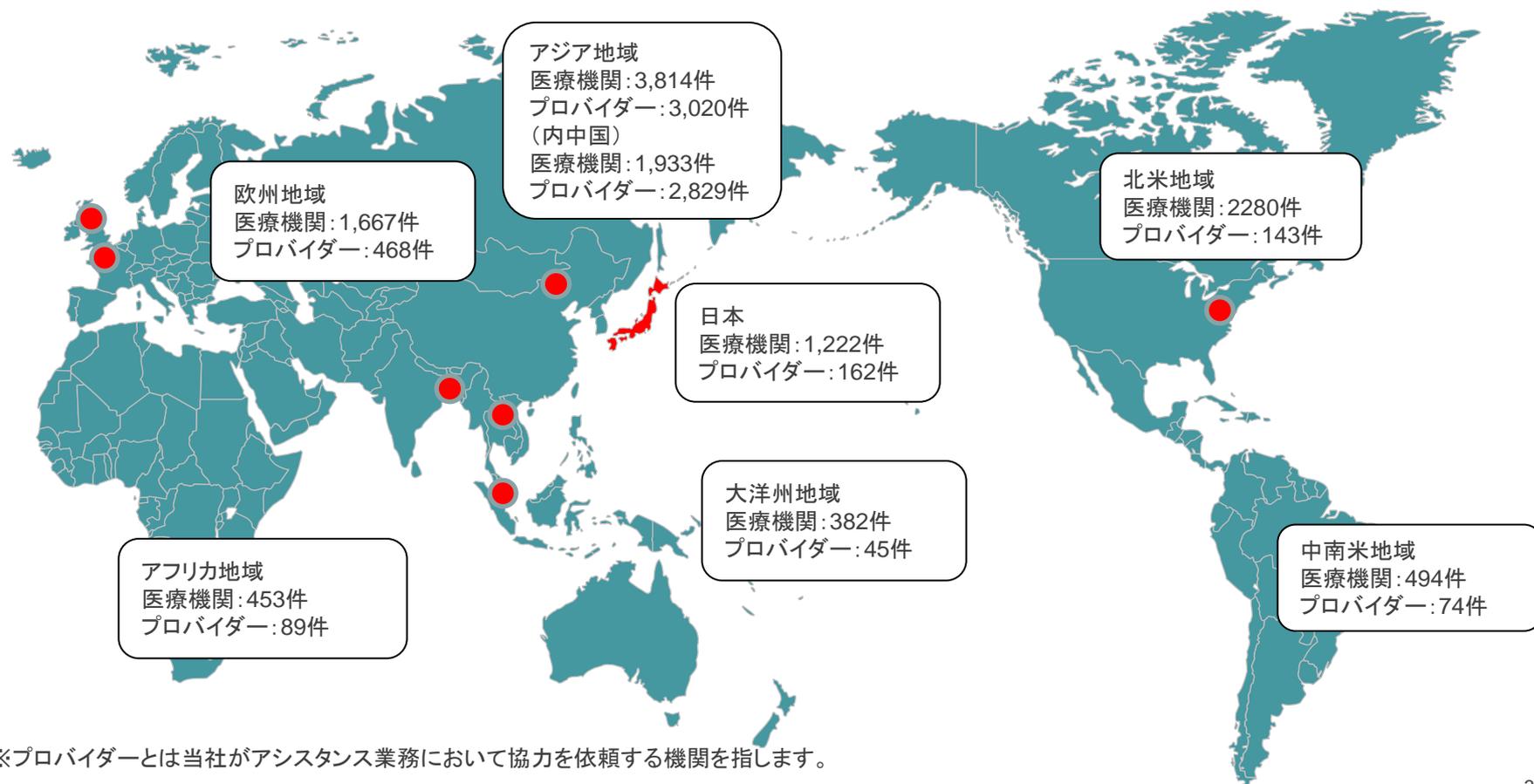
けれど海外で欲しいサービスは様々です。EAJは民間であることを生かして高いレベルのサービスを提供し、海外で生活してビジネスを行う日本人が頼れる存在になりたいのです。

例えるならば、警察があっても民間警備会社があるように、日本郵便があっても宅配会社があるように、大使館・領事館があってもEAJがあるというような存在になりたいと思います。

そして、世界中どこでも安心と安全を提供できる企業を目指します。

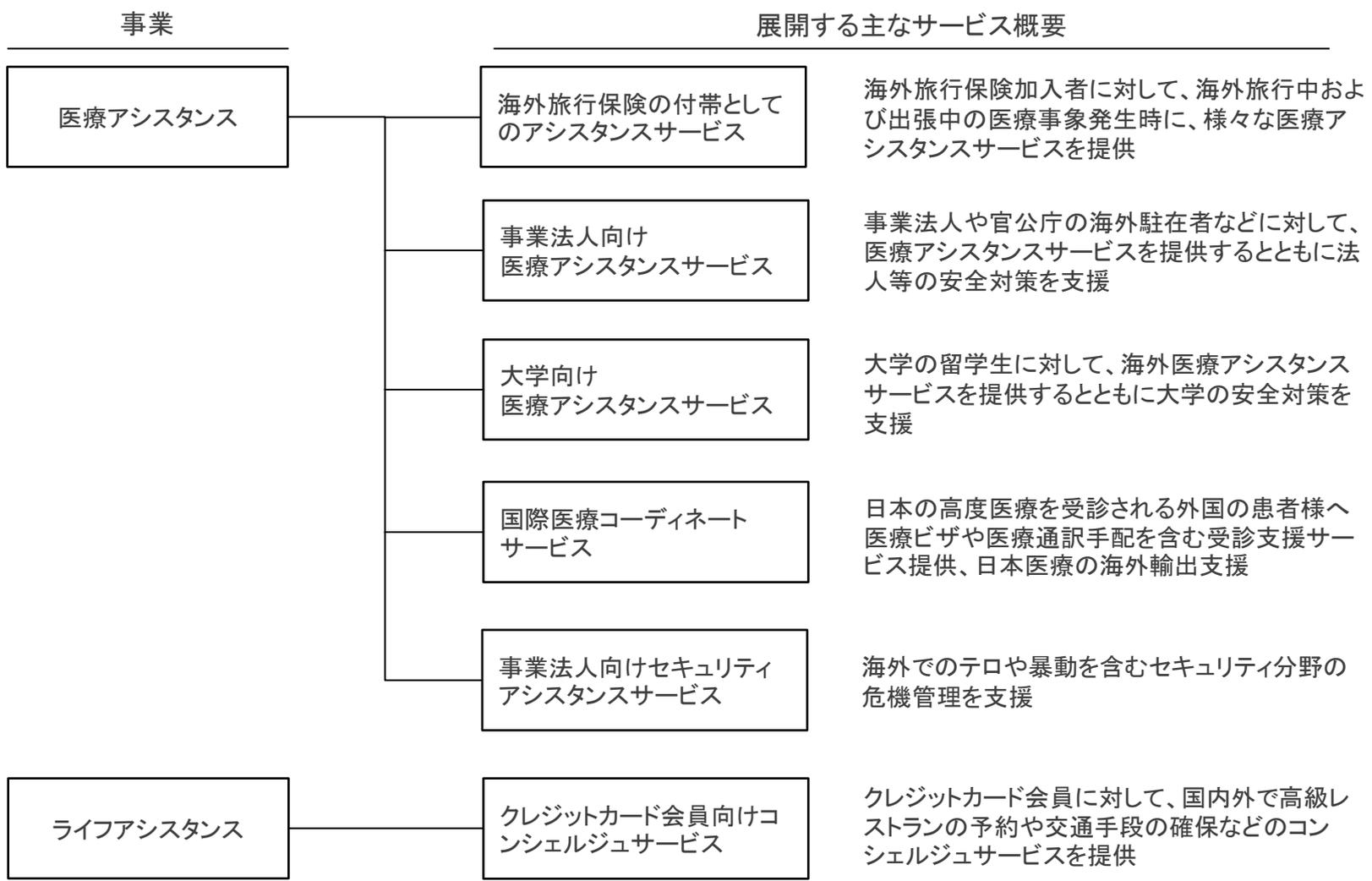
## EAJのネットワーク網

- 7ヶ国に海外センターを配置（● 米国、中国、タイ、シンガポール、英国、フランス、バングラデシュ）
- 拠点数は全世界で13カ所、グループ要員数は310名
- 世界各国で10,312件の医療機関と、4,001件の海外プロバイダーを活用してサービスを提供



※プロバイダーとは当社がアシスタンス業務において協力を依頼する機関を指します。

# 当社事業およびサービスの状況



## Ⅱ. 2014年度第1四半期連結累計期間の決算報告

## 第1四半期の業績サマリー

- 売上高                    626百万円(前年同期:548百万円)  
  営業利益                 $\Delta$ 4百万円(前年同期: 20百万円)  
  経常利益                 $\Delta$ 6百万円(前年同期: 18百万円)
- 海外出国者数については1~3月は前年度と比較して減少している。しかし、当社のアシスタンスサービス提供数は順調に推移し、全体の売上高は626百万円となった。(前年同期比で14.3%の増収)
- 本年度を昨年に引き続き「効率的な長期的ビジネス拡大の基盤作り」の完成の年と位置付けた。海外センターを中心としたグローバル人材の採用と教育、医療機関ネットワークの拡充、高機能通信機器への設備投資等を実施したことによる費用の増加、円安による海外センターコストの増加により、営業利益は $\Delta$ 4百万円となった。
- 借入金の支払利息、バングラデシュ子会社に対する持分法投資損失等の発生により経常利益は $\Delta$ 6百万円となった。

## 第1四半期のトピック

- 海外出国者数が前年比で減少したが当社のアシスタンスサービス提供数は増加した。当社の認知度向上に伴い、ビジネスが順調に推移しているためと考えられる。
- 巨大化・多様化する海外リスクに対応し、リスク管理体制を強化する法人・大学等が増加。危機管理を支援する当社サービスに対するニーズが増えた。また、当社も積極的な営業活動を展開したことにより、法人・大学との新規契約が順調に増加した。
- 国際医療支援事業分野における外国人患者の受入数は順調に増加している。官公庁受注業務も売上金額は順調に推移しており、国際医療コンサルティング業務(※)のノウハウの蓄積が進んだ。
- 外国人の在日外客数は過去最高であった前年を上回るペースで推移している。今後2020年東京オリンピック開催まで在日外客数は順調に推移すると考えられる。オリンピックに関する当社事業について情報収集と調査を開始。

(※)国際医療コンサルティング業務とは医療の輸出において、当社が現地医療情報の調査や医療従事者の交流や技術移転等のコーディネート等を実施する業務の総称

## 第1四半期連結累計業績

(単位:百万円)

|        | 前年同期<br>(売上高利益率) | 第1Q<br>(売上高利益率) |
|--------|------------------|-----------------|
| 売上高    | 548              | 626             |
| 営業利益   | 20<br>(3.8%)     | △4<br>(△0.6%)   |
| 経常利益   | 18<br>(3.3%)     | △6<br>(△1.0%)   |
| 四半期純利益 | 11<br>(2.1%)     | △4<br>(△0.8%)   |

### 売上高

前年に比べ海外出国者数が減少している中、アシスタンスサービス提供数は順調に推移し、前年同期比で増収となった。

### 費用

- 円安による海外センターのコストが増加
- サービス体制強化のための費用の増加
  - ・グローバル人材の採用と教育
  - ・医療機関ネットワークの拡充
  - ・高機能通信機器への設備投資

## セグメント別業績ハイライト

医療アシスタンス事業は、海外出国者数が減少したものの、アシスタンスサービス提供数及び売上は増加。ライフアシスタンス事業は、サービスの拡充及び新規サービス提供開始により前年同期比で売上が増加。

(単位:百万円)

|             | 前年同期 |     | 第1Q |     |
|-------------|------|-----|-----|-----|
|             | 売上高  | 利益  | 売上高 | 利益  |
| 医療アシスタンス事業  | 457  | 64  | 526 | 50  |
| ライフアシスタンス事業 | 91   | 30  | 99  | 30  |
| 調整額※        | -    | △73 | -   | △85 |
| セグメント合計     | 548  | 20  | 626 | △4  |

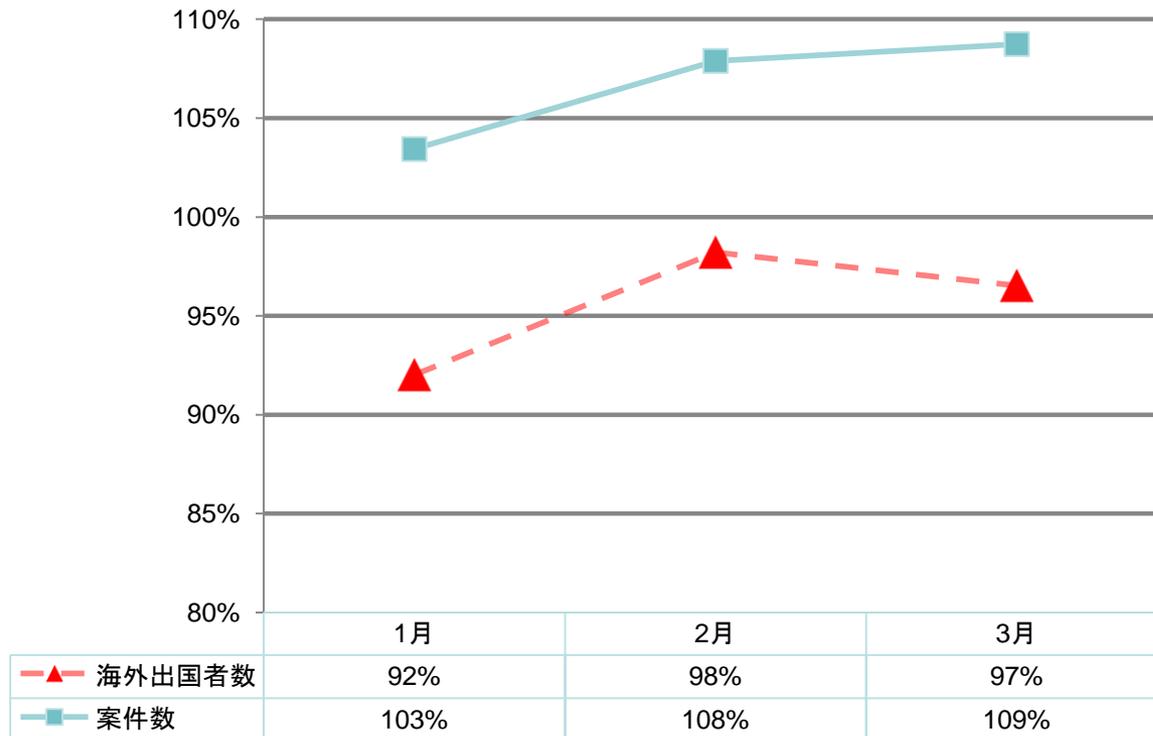
※ 調整額とは、各報告セグメントに配分していない全社費用のこと。

※ セグメント利益の合計額は四半期連結損益計算書の営業利益と一致している。

## 医療アシスタンス事業の概要

海外出国者数は減少傾向にあるが、当社アシスタンスサービス提供数(以下「案件数」)は前年同期比で増加傾向にある。

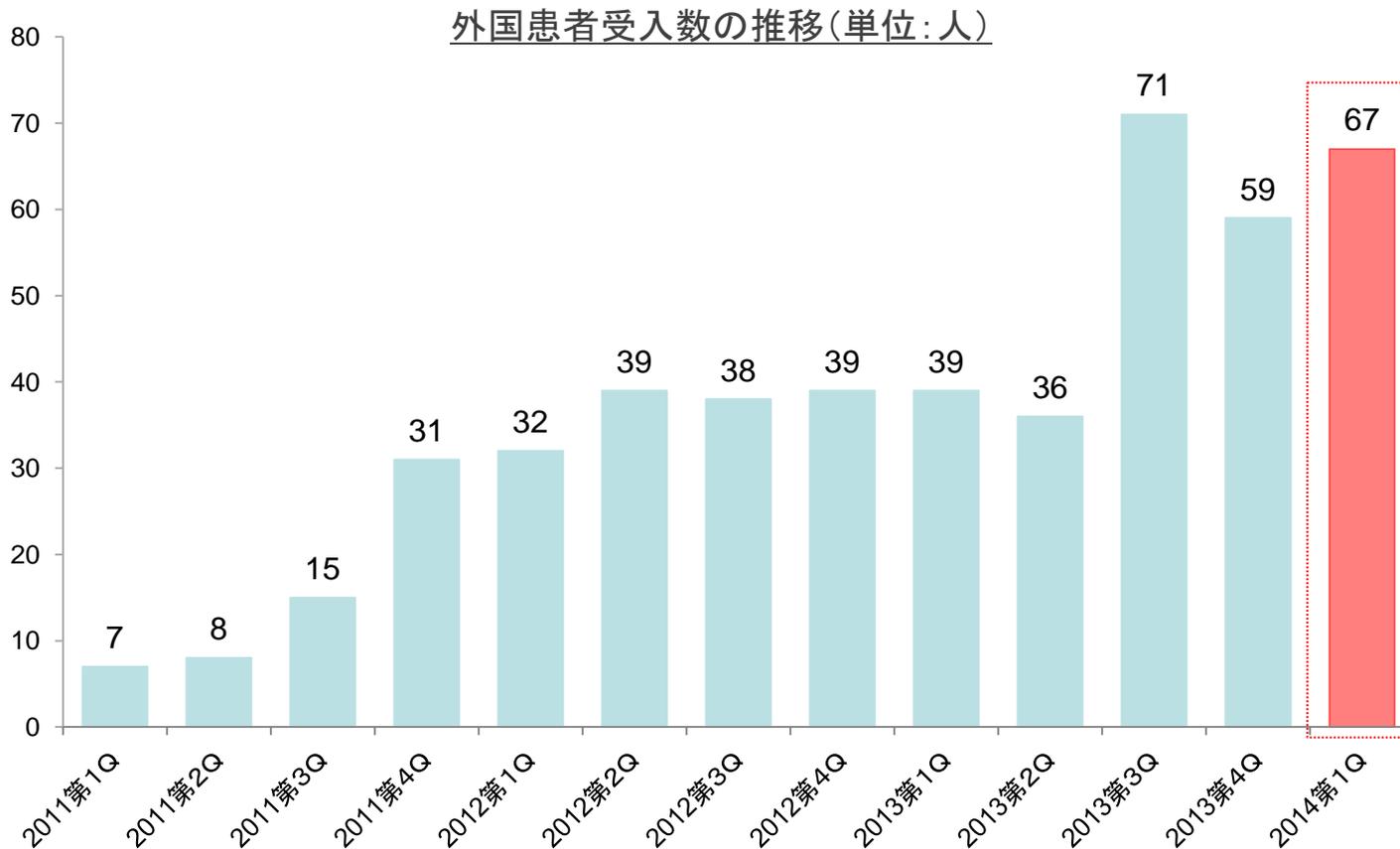
海外出国者数と案件数の推移(前年同期比)



資料:海外出国者数は『平成26年 出国日本人推計値』JNTOを参考とした。2月・3月についてはJNTO推計値。  
また、案件数は、今年度新たに契約したビジネスを除いた、既存ビジネスの対比。

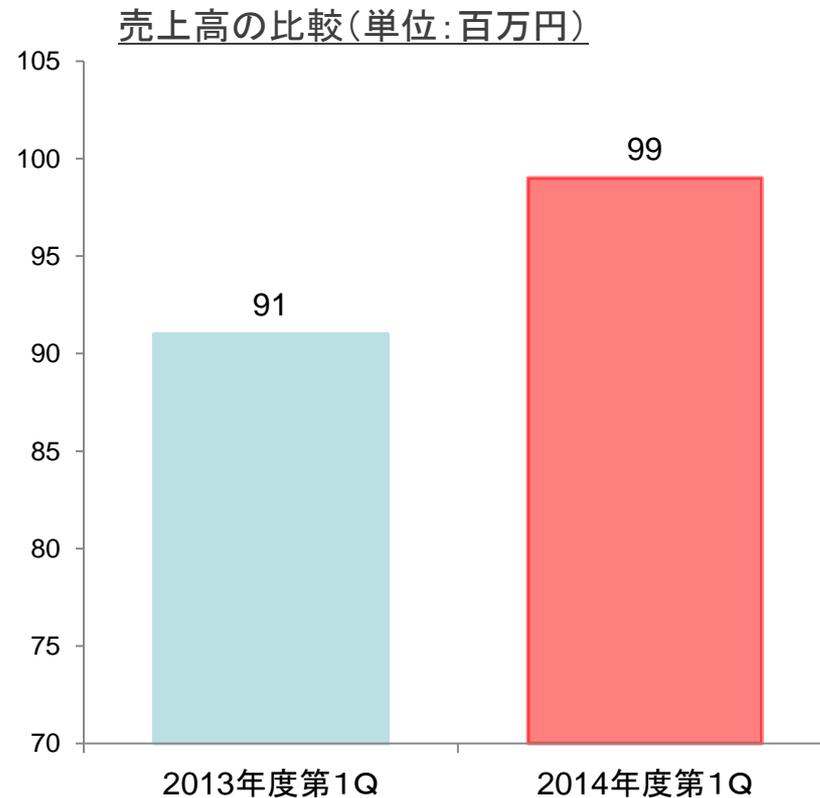
## 医療アシスタンス事業の概要

国際医療事業分野の外国人患者受入数は前年より増加傾向にある。  
第1Qの受入数は前年同期比で大幅に増加した。



## ライフアシスタンス事業の概要

第1Q終了時点で、ライフアシスタンス事業の売上高は前年同期比で8百万円増加。



既存サービスの拡大及び第1Qからの新規サービスが稼働し、前年同期比で売上が増加。

## 第1四半期連結貸借対照表

(単位:百万円)

|          | 2013末 (構成比)  | 第1Q末 (構成比)   |
|----------|--------------|--------------|
| 総資産      | 1,594 (100%) | 1,760 (100%) |
| 流動資産     | 1,457 (91%)  | 1,614 (91%)  |
| 固定資産     | 136 (8%)     | 146 (8%)     |
| 流動負債     | 919 (57%)    | 928 (52%)    |
| 固定負債     | 64 (4%)      | 243 (13%)    |
| 参考:借入金残高 | 581 (36%)    | 732 (41%)    |
| 純資産合計    | 610 (38%)    | 588 (33%)    |

### 流動・固定資産

- 国際医療プロジェクトの売上高計上に伴う売掛金が増加、また、銀行からの借入により現金及び預金が増加
- システム投資により固定資産が増加

### 負債

- 投資資金確保のため金融機関からの借入金が増加

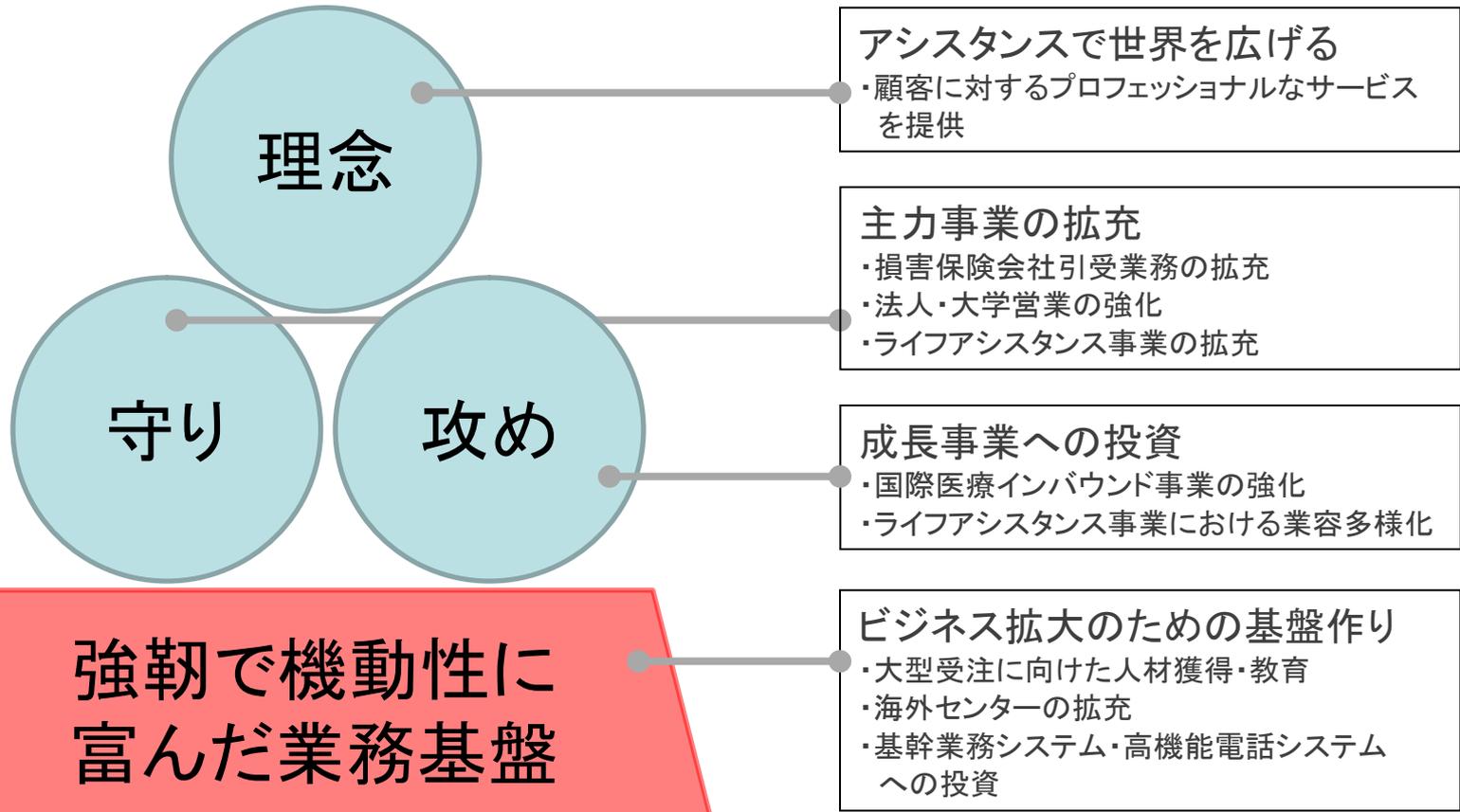
### 純資産

- 配当金支払のため資本剰余金が減少

## Ⅲ. 各種施策の取組み状況のご説明

## 2014年の重点目標

EAJは「攻め」と「守り」のバランスの取れた経営を目指す。2014年に関しては「ビジネス拡大のための基盤作り」に重点を置く。



# 2014年全社重点事業目標の進捗状況

## 全社重点事業目標

## 第1Qの進捗状況

大型受注獲得とそのための受入態勢の確立

大型案件受注を確実にするため、人材・システムに先行投資をし、サービス品質向上策を推進。

大規模システム投資によるグローバル体制の確立とサービス品質世界一への取組み

新電話システムを全センターに導入し、基幹業務システムを更新中。グローバルな医療アシスタンス体制を強化し、サービス品質世界一を目指す。

法人・大学向け医療アシスタンスサービス提供数の大幅拡大

法人・大学に積極的な営業をかけ、医療アシスタンスサービスを提供する法人・大学数を増やす。

国際医療インバウンド患者数の大幅拡大及び国際医療コンサルティングのビジネスモデル確立

インバウンドサービス数は順調に推移し、受入患者数は増加傾向にある。また、官公庁から大型プロジェクトを受注した。

ライフアシスタンス事業の新規契約獲得

新規事業の獲得とサービスの提供を開始。既存顧客との取引関係の強化を目指す。

# 各種施策に関する主要NEWS RELEASE

## 日本エマーゼンシーアシスタンスがインドネシアで開催された「Medical Excellence JAPANセミナー」に参加、出展しました

NEWS RELEASE



2014年3月6日

報道各位

会社名 日本エマーゼンシーアシスタンス株式会社  
 代表者名 代表取締役社長 吉田 一正  
 (コード番号: 6063 東京証券取引所JASDAQ)

**日本エマーゼンシーアシスタンスがインドネシアで開催された「Medical Excellence JAPANセミナー」に参加、出展しました**

先月2月27日にインドネシア・ジャカルタにて開催された「Medical Excellence JAPANセミナー」に、日本エマーゼンシーアシスタンス株式会社(略称:EAJ、本社:東京都文京区、代表取締役社長:吉田一正、URL:<http://emergency.co.jp/>)はインバウンド(外国人患者受け入れ)機関として参加し、外国人患者の受け入れに関する当社のサービスについてプレゼンテーションを行ったほか、提携医療機関の資料などを紹介するブースを出展しました。

セミナーには、インドネシア側から保健省保健局長 Dr. Akmar Taherをはじめ、約160名の医師、医療関係者が参加しました。日本側からは、在インドネシア日本大使館の島田順二公使、Medical Excellence JAPAN(以下 MEJ)の内田牧男理事、田中敏一京都大学名誉教授、唐澤克之駒込病院放射線診療科治療部長、森田圭紀神戸大学医学部附属病院消化器内科講師、当社を含むMEJ会員企業12社の関係者が参加し、双方の参加者は総勢200名を超えました。

当社は、MEJのインバウンド案件を扱う企業の代表として出席し、ブースに集まった現地の医師や関係者に、インドネシア人患者が日本で医療を受ける場合の当社サービスの説明や当社の提携する医療機関のパンフレットを参照しながら日本の医療の強みについて紹介しました。

セミナーに先駆けて、経済産業省担当者、日本の医師、企業関係者の代表が、インドネシア保健省を訪れ、保健局長とインドネシアとの医療協力推進について協議しました。

ケンピンスキーホテルで開催されたセミナー第1部の「全体会議」では、公使やMEJ理事のスピーチに続き、生体肝移植の権威である田中敏一名誉教授が「Establishment of Indonesia-Japan Joint Center for Diagnostic Treatment of Digestive Disease」の標題で講演を行いました。

続くセミナー第2部の「ワークショップ」では、当社は「治療分野」に出席し、外国人患者へのコーディネートサービス(※)についてプレゼンテーションを行いました。

セミナー終了後には、患者送り出しを希望する現地医療関係者と打ち合わせを行うなど、当社のインドネシアからの患者の受け入れ経験をアピールでき、インドネシアにおいて日本でのインバウンド受入の認知度を高める良い機会となりました。

当社は、今後も東南アジアを重点地域のひとつとして、積極的にプロモーション活動を展開し、日本への外国人患者の受入を積極的に推進してまいります。

(※)国際医療コーディネートサービスとは、日本での治療を希望する外国人患者に対し、EAJが提供するサービスで、日本の医療機関における治療の手配、日本での医療ビザ発行の支援、日本滞在中の支援、治療に際しての医療通訳、医療者への支払代行等の一連のサービスを提供するものです。

## 平成26年度産油国石油精製技術等対策事業費補助金に係る補助事業者の公募採択に関するお知らせ

NEWS RELEASE



2014年5月7日

各位

会社名 日本エマーゼンシーアシスタンス株式会社  
 代表者名 代表取締役社長 吉田 一正  
 (コード番号: 6063 東京証券取引所JASDAQ)

**平成26年度産油国石油精製技術等対策事業費補助金に係る補助事業者の公募採択に関するお知らせ**

日本エマーゼンシーアシスタンス株式会社(略称:EAJ、本社:東京都文京区、代表取締役社長:吉田一正、URL:<http://emergency.co.jp/>)は、このたび、平成26年度産油国石油精製技術等対策事業費補助金(産油・産ガス国開発支援等事業のうち産油・産ガス国産業協力等事業に係るもの)に係る補助事業者の公募に採択されましたのでお知らせします。

[http://www.enecho.meti.go.jp/appli/public\\_offer\\_result/140331c/](http://www.enecho.meti.go.jp/appli/public_offer_result/140331c/)

当社が実施する事業の具体的内容は以下の通りです。

1. アラブ首長国連邦(UAE)アブダビ首長国と我が国の医療分野における協力強化事業
2. カタール国と我が国の医療分野における協力強化事業

当社はこれら事業の管理全般を担い、日本の優れた医療サービスの継続的な訴求を行います。日本の医療サービスの認知を深めることで、アウトバウンド事業(医療技術・機器等の輸出)及びインバウンド事業(外国人患者の受入サポート等)を増やし、同地域における日本の医療の国際展開を推進いたします。

■本件に関するお問合せ先  
 管理部 1R室  
 電話: 03-3811-8121

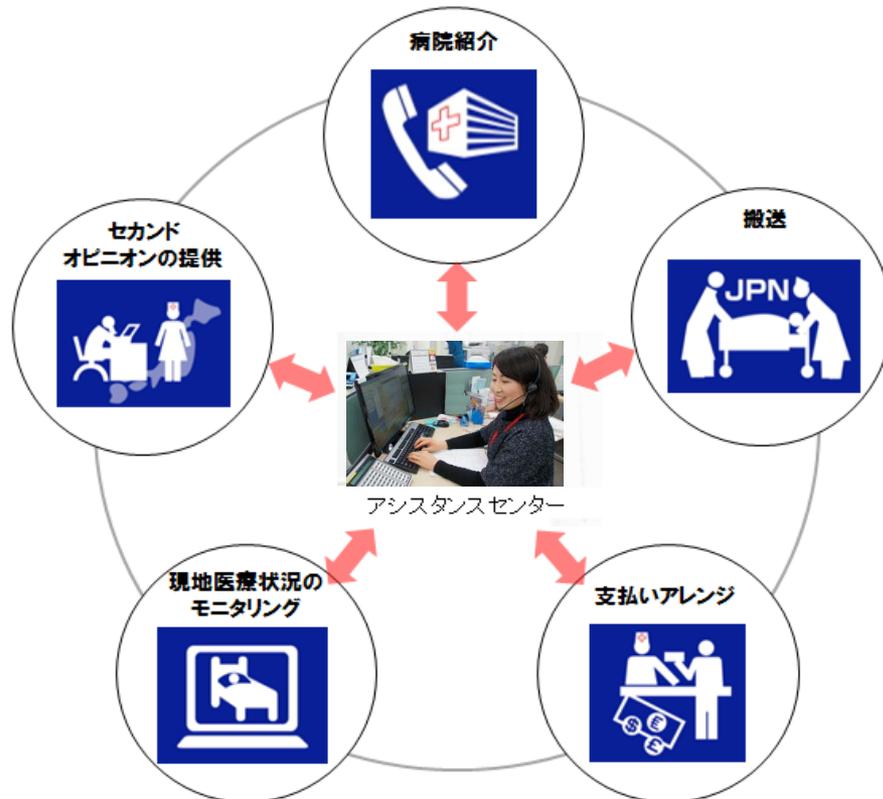
以上

## Appendix: アシスタンスとは？

日本エマージェンシーアシスタンス株式会社

# 医療アシスタンスとは

医療アシスタンス事業とは、海外で病気や怪我をした方が、必要な医療を受けられるようにコーディネートを行うサービスです。EAJは、7カ国に存在する海外センターや当社が構築した世界各国に及ぶ医療機関・医療関係者とのネットワーク網、搬送飛行機会社等の各種海外プロバイダーを活用して、国や地域を問わず、海外での受診に必要となる様々なコーディネートを行います。



●アシスタンスサービスを提供するオペレーションセンターが、電話によりお客様のニーズを把握

●その後外部機関への要請などを含め、海外での受診に必要となる様々なコーディネートを実施

治療



お客様が安心して治療を受けられるようサポートする仕事です。

# 医療アシスタンスの必要性

## 緊急時の問題点

海外で病気や事故が発生したが、

- ・現地情報・医療機関に関する情報がない
- ・前払いで多額の料金を請求される
- ・言葉が通じない

独自で現地医療機関に緊急入院したが

- ・病院のレベルが低い
- ・言葉が通じないのでそのまま入院するのは不安だ

本当は日本で医療を受けたいが

- ・どうしたらいいのかわからない
- ・日本のどこの病院に連絡すればいいのかわからない
- ・そもそも動けないので自力で日本に帰れない

## 医療アシスタンスの必要性

## EAJのコーディネーターは

患者の容体を把握し、適切な指示を行う。

- ・病状に応じた適切な医療機関の案内
- ・キャッシュレスサービスを利用できる医療機関の案内、保険請求のための手続き
- ・現地医師とのコミュニケーション支援

現地の医療レベル評価、関係者の渡行支援

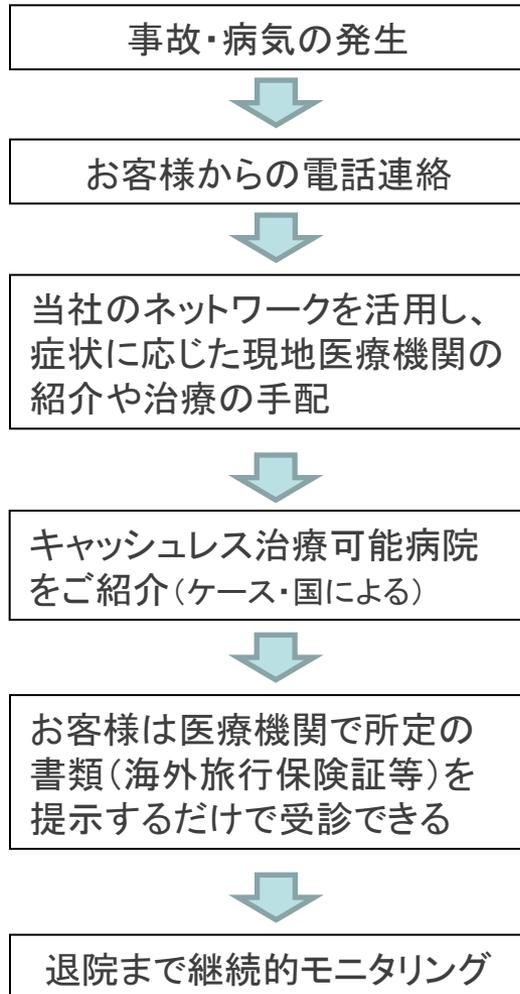
- ・現地治療状況のモニタリング
- ・海外医療に詳しい日本人顧問医や専門医による現地治療の評価及びセカンドオピニオンの提供
- ・医療通訳派遣、家族等関係者の渡行支援

搬送判断とアレンジメントを行う

- ・患者を現地の医療に委ねるか、医療レベルの高い近隣諸国あるいは日本に搬送するかを当社顧問医が判断
- ・コーディネーターは顧問医の判断に基づき搬送チーム(医師・看護師・コーディネーター)を編成し搬送を実施

## 医療アシスタンスの例①(医療機関手配)

### 医療機関手配の流れ



### コーディネーターの役割

- ・EAJは海外に13の拠点を持ち、24時間365日お客様をサポート。
- ・ベテランコーディネーターがお客様の状況を正確に把握し、ソリューションを提供。
- ・お客様に対してどのような処置が必要かを医師と相談しながら判断し、医療機関を案内・予約・往診手配・救急車手配(※)。
- ・必要に応じ、受診時の通訳派遣手配。
- ・当社と提携している医療機関ではキャッシュレスサービスを受けられます。
- ・提携病院に対して当社が医療費を立替え、保険会社・法人に請求書を提出するため、お客様はキャッシュレスで受診できます。(キャッシュレスの場合)
- 退院時までお客様の回復状況を継続的にモニターします。



当社オペレーション室

※お客様が海外旅行保険の加入者である場合には、保険契約証上の保険金額記載担保項目によってサービスが限定される場合がございます。



## 医療アシスタンスの例②(搬送)

### 搬送の流れ

搬送(エスコート)チームが日本を出発し、お客様入院の現地医療機関に到着



現地病院から医療引継し、現地国から飛行機(病状によっては専用機)で日本の医療機関まで搬送する



日本の医療機関に医療引継後、お客様は入院



退院まで継続的モニタリング

### コーディネーターの役割

- ・お客様の病状により、日本人看護師、医師を派遣し、現地でお客様の病状を確認します。

- ・患者が重病である場合などは専用機を手配します。

- ・空港での代理通関の実施。酸素吸入マスク・ストレッチャーの準備。

- ・飛行機の中では看護師、医師が患者のバイタルサインを常時チェックします。

- ・搬送中は、酸素量の調整や精神的なフォローをしてお客様の安全を確保します。

- ・日本の受入担当医には事前に医療情報を提供しておき、引継時に現在の状況を説明し、お客様は入院されます。

退院時までお客様の回復状況を継続的にモニターします。



専用機

資料: ルフトハンザドイツ航空提供



ストレッチャー

資料: ルフトハンザドイツ航空提供

## ライフアシスタンスとは

ライフアシスタンス事業とは、コンシェルジュサービスのことであり、お客様の様々な相談や要望に応えるサービスです。当社はクレジットカード会社からカード会員向けのコンシェルジュサービスを受託しております。主に海外出張・旅行中のお客様（カード会員）の様々なご要望の実現をお手伝い(コーディネート)する業務です。

例えば何かの記念で、ご夫婦でパリに旅行に行くとき、旦那様が奥様にミシュランの三ツ星の付いているレストランでフランス料理を食べさせてあげたいと考えたとしましょう。

奥様を喜ばせてあげたいと思っても、実際にはフランス語はよくわからないので予約が難しいし、満席で断られるかもしれません。その前に、どこのレストランを選べばよいのか、どうやって行けばよいのかわからないということがあると思います。そのようなお客様の要望を満たすのがEAJのコンシェルジュサービスです。

### 海外出張・旅行中の

- ・著名・高級レストランの予約
- ・お買い物支援
- ・スケジュール変更
- ・災害などで運休されたフライトの代替交通手段の確保 等



### EAJがお客様のご要望の実現をお手伝い

- ・ベテランコーディネーターがノウハウとコネクションを生かしてお客様のご要望に応えます。
- ・海外でも日本と同様あるいはそれ以上に快適な生活を送れます。

⇒ EAJは、世界各地で、日本語でコンシェルジュサービスを行っております。  
「より気持ちよく、より楽しい」海外生活のアレンジを行っています。

本説明資料に含まれる将来の見通しに関する部分は、現時点で入手可能な情報に基づき判断したものであり、実質的にこれらの記述とは異なる結果を招き得る不確実性を含んでおります。それらの不確実性には、業界ならびに市場の状況、金利、為替変動、国内外の事業に影響を与える政府の法規制といった国内及び国際的な経済状況などが含まれますが、これらに限定されるものではありません。今後、新しい情報・将来の出来事等があった場合であっても、当社は、本発表に含まれる「見通し情報」の更新・修正をおこなう義務を負うものではありません。

また、当資料は投資勧誘を目的としたものではありません。投資に関する決定はご自身の判断において行われるようお願いいたします。

Copyright ©Emergency Assistance Japan Co., Ltd. All Rights Reserved.

日本エマージェンシーアシスタンス株式会社